

会議録

会議の名称	第1回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会
開催日時	令和7年7月7日（月曜日）午後3時から午後4時30分まで
開催場所	イングビル3階 第3・第4会議室
出席者	委員：小野部会長、小林委員、島崎委員、辻委員、中西委員、林委員 事務局：遠藤子ども若者部長、菱川子ども若者応援課長、福所児童青少年課長、宮田子ども若者応援課子ども若者計画係長、越川子ども若者応援課子ども若者計画係主任、須藤子ども若者応援課子ども若者計画係主任、園田子ども若者応援課子ども若者計画係主事、高橋子ども若者応援課子ども若者計画係主事
議題	1 審議 (1) 「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証の仕組みづくりの検討及びスケジュールについて (2) ワイワイトークについて 2 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会 会員名簿 資料2 「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証の仕組みについて 資料3 令和7年度専門部会スケジュール（案） 資料4 西東京市ワイワイトーク（子ども会議）の実施について 資料5 ワイワイトークチラシ
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 審議</p> <p>(1) 「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証の仕組みづくりの検討及びスケジュールについて</p> <p>事務局から資料2、資料3に沿って説明</p> <p>○小野部会長： 意見等はあるか。</p> <p>○島崎委員： 子ども・若者の権利の観点からの評価とあるが、子ども・若者ワイワイプラン（以下「ワイワイプラン」とする。）を評価するということか。それとも、昨年度開催した子ども会議で出された子どもからの意見が市の施策に反映できているかを評価することも含まれているのか。</p>	

○小野部会長：

基本的にはワイワイプランの評価・検証の仕組みづくりについて議論する。今年度からワイワイプランが始まっているので、今年度は昨年度の取組について試行として評価検証を行う。昨年度開催した子ども会議での意見も踏まえるが、ワイワイプランに対してどのように子ども・若者の権利の観点から評価・検証をするのか議論を行う。

○林委員：

評価・検証の仕組みづくりについて、今年度は試行実施ということだが、来年度以降は定期的実施していくのか。

○小野部会長：

来年度以降に実施する仕組みについて、令和8年1月に開催予定である子ども・若者審議会までに提案する予定である。

○林委員：

会議体を組織するか、ワイワイトークのような定期的に子ども・若者の意見を聞く場を設けるのがよいのかななどを議論するということであるか。

○小野部会長：

そのとおりである。

ワイワイトークは子どもが対象であり、若者が入っていないので、今後議論が必要である。若者については7月に市の組織改正があり、子ども若者部が新しくできた。西東京市では、子ども若者部だけではなく様々な部署においても若者参加に取り組んでいると感じており、西東京市と評価・検証専門部会（以下「専門部会」とする。）がどのように連携していくのかについても、今後の専門部会で議論したいと思う。

○林委員：

専門部会にて議論する際は、子どもと若者の両方の視点で考えるのか、それとも分けて考えるのか。また、西東京市が考えている若者の年齢の定義について確認したい。

○小野部会長：

ワイワイプランでは、若者は16歳からおおむね29歳の者とするが、取組の内容や必要により30歳以上も対象とすると定義している。

○林委員：

子どもの年齢の定義は、18歳未満であるのか。

○小野部会長：

そのとおりである。

○辻委員：

ワイワイトークでは、子どものための市の取組について子どもたちが話し合っ評価するとのことであるが、児童館や図書館など子どもが分かりやすい施設について、市の

自己評価を伝えるとともに子どもの意見を聞いていこうという想定でよろしいか。

○小野部会長：

今回は試行であるため、子どもが分かりやすい施設を対象としているが、ワイワイプランは施設に限ったことではないので、本来はもう少し広い範囲で評価・検証をしていきたい。

次回の専門部会からは、委員の皆様にはワイワイプランをご覧いただき、子ども・若者の権利の観点から検証した方がよい項目を洗い出して議論を進めていきたい。

子ども条例や子ども相談室の取組などもワイワイプランの要素にあるのももう少し広い視点で議論していきたい。

○林委員：

子どものための市の取組について、当事者である子どもや若者に評価してもらおうということか。

○小野部会長：

そのとおりである。

また、子どもに参加してもらうための広報周知の観点や、子どもにどのような影響があったか、子どもの最善の利益の観点などから評価したい。

○林委員：

乳幼児や障害児、外国にルーツのある子どもや不登校の子ども、子どもの貧困など、様々な子どもの当事者性にアプローチをかけて、どのように意見を取り入れるのか。すべての対象から意見を取り入れるのは難しいことだと思うが、少なくとも検討はした方がよいと思う。

また、実際に事業を行っている児童館、学校、児童福祉施設などの実際の場所で当事者が評価する仕組みがあるのか。身近なところで評価・検証、市政への参加の仕組みがないと、いきなり市全体の評価・検証を行うのは難しいものがあると思う。

西東京市ワイワイトークワークブック（以下「ワークブック」とする。）を拝見すると、子どもの意見を市政に反映させた事例などを紹介しており、子どもの市政への参加や子どもの意見のフィードバックなどはすでにできているようなので、事例は上手く取り上げていかないと、実際に現場で頑張っている職員の士気を下げかねない。

○小野部会長：

今回開催するワイワイトークのように子どもを募集する方法では、乳幼児や障害児は参加が難しい。そのことも含めて、今後議論していきたい。

○島崎委員：

ワイワイトークに参加できる子どもは意見することができるが、実際には参加できない子どもが大多数である。西東京市の取組について説明をした上で意見を聞けるとよいと思う。相手に適した話し方ができる専門的な方が説明するのがよいと思う。

- 小野部会長：
例えば、各学校を回って説明をするということか。
- 島崎委員：
そうである。
- 小野部会長：
現在、子どもの権利擁護委員が小学6年生向けに出張授業を行っているのが、限定的である。
- 小野部会長：
子どもに説明をすることに関して、他によい方法はないか。学校のタブレットを用いて説明するのはどうか。
- 辻委員：
タブレットは使えなくはないと思うが、子どもにどのように伝えるかが重要である。子どもに説明をしたうえで子どもから意見を聞くためには、タブレットで文字だけを用いて一方的に伝えるだけでは難しいと思う。
- 小野部会長：
子どもに説明をする人員を養成していくことも重要である。
大学や若者をアドボケーターとして派遣することも考えられる。
- 林委員：
ワークブックでは、分かりやすく説明されていると感じるが、今回のワイワイトークではこの冊子を用いて説明するのか。
- 小野部会長：
そのとおりである。
- 林委員：
ワイワイトークの様子を撮影した動画を、学校などにおいてタブレットで視聴してアンケートに答えてもらうことができれば、より広い範囲の子どもを巻き込むことができると思う。
また、キッズコメントやアウトリーチ調査など、ワイワイトークに限らずワークブックを活用したほうがよいと思う。
- 辻委員：
子どもがワイワイトークの様子を動画視聴して、アンケートに回答したり、意見表明をするということはイメージがしやすい。しかし、学校は年間のスケジュールが決まっているため、時間をねん出することが難しく、実際に子どもが学校でできる時間がないのが現状である。

○小林委員：

社会科や生活科の時間に入れるのはどうか。

○辻委員：

できなくはないが、難しいと思う。年間の指導計画は決まっており、その単元の教材として計画的かつ効果的に取り扱う必要がある。ただ、中学1年生の総合的な学習の時間に子ども版のワイワイプランを用いて勉強した。市のことを勉強する導入として、市政の運営のスタンスを学んだところ、様々な意見が出て、子どもからの反応もよく、非常に勉強になった。ワークブックも上手く活用できたらよいと思う。

○林委員：

子ども版のワイワイプランを用いた学習は今も続いているのか。

○辻委員：

今年度からの取組である。

また、すべての学校で取り組んでいるものではない。

○林委員：

他の学校でも同様の取組を横展開できるように、市の愛着が増したり、成長できるなど他の学校が追随したいと思うような仕組みづくりも考えられるとよい。

教育委員会と連携することも考える必要があると思う。

○小野部会長：

学校を利用した方が、より多くの子どもから意見を取り入れられると思う。

○島崎委員：

小学3年生のときに西東京市について学ぶ時間があるので、小学校の方が授業に組み込みやすいのではないかと思う。

○中西委員：

評価の指標について、「事業を行ったことにより、子どもにどのような効果があったか」を子どもの最善の利益の観点から評価するということだが、どのような評価をするか、またどういう状態を指すのか確認したい。

○小野部会長：

子ども本人に聞くことや、アンケートを取る方法などが想定される。

○林委員：

子どもの単なる満足度ではないのか。

○小野部会長：

子どもの最善の利益の観点であるため、子ども自身がよいと感じたらよいわけではあるが、長期的な視点が必要である。他自治体の例も参考にして議論していきたい。

○小林委員：

子どもからの意見表明は難しいものもあるので、保護者など周囲の方から意見を聞くことも考えられるとよいと思う。

○小野部会長：

他自治体が行っている施策について、次回の専門部会に用意いただきたい。

○事務局：

承知した。

(2) ワイワイトークについて

事務局から資料4、5に沿って説明

続けて、ワイワイトークの事前学習で使用するワークブックを説明する。

前半は、ワイワイプラン及び子ども条例に関する内容であり、後半はワイワイトークのテーマに沿った内容である。別紙プリントは、ワイワイトークの事前学習として子どもが事前に記入するものである。

ワイワイトークのテーマに沿った内容のページは、施設ごとに見開きで「やっていること」「みなさんのための取組」「市のできている度（自己評価）」を記載している。

「みなさんのための取組」の内容については、各課が令和6年度に実施した内容を記載している。写真を多く入れることや、なるべく少ない文字で市の取組について説明し、子どもたちが読みやすくなるように工夫した。

事前学習では、各施設のページを見て、それぞれの取組に対して、「どう思うか」「ちゃんとできていると思うか」「どうなったらもっと良い取組になるか」を考えることとしている。そして、当日グループで話し合い、市の取組に対する評価を発表することを想定している。

ワークブックの作成にあたり、児童館にて原案を読んで、わからない表現や掲載する写真、レイアウトについて小学生4・5年生に意見を聞いて整えた。委員の皆様からも、レイアウトや当日の話し合いでの使用方法についてのご意見等をいただきたい。

○小野部会長：

意見等はあるか。

○中西委員：

私のゼミにて学生たちと話し合った際に、写真やイラストが入っていることやレイアウトや色合いは読みやすくてよいと話していた。小学生に限らず、子どもにとって西東京市の自己評価という表現は難しく感じると思う。また、子どもがあまり効果を実感できていない取組があっても、市が「できている」と自己評価している取組に対して否定的な意見は表明しにくいのではないかという意見があった。ゼミで話し合った際には、大学生から市の自己評価は削除した方がフラットに考えられるという意見もあった。

また、市の取組が「できている」という評価はできると思うが、実際にその施設を利用していないと課題を見つけることは難しいと思う。児童館・児童センター、公園、公民館、図書館といった施設だけではなく、学校などの身近な施設の方が意見しやすいと思う。

○小野部会長：

市が「できている」と評価している取組に対して、子どもたちは否定的な意見を出しにくいと思うかもしれない。

ワイワイトーク当日は、すべての子どもが児童館・児童センター、公園、公民館、図書館の4つの施設について評価するのか。

○事務局：

4つの施設についてグループで話し合い、発表はそこから1～2つ選ぶことを想定している。

○小野部会長：

小学生はあまり公民館を利用しなかったり、児童館・児童センターも近くにないと利用していないこともあると思う。

市の自己評価欄について削除した方がよいか、それとも残した方がよいか意見をいただきたい。

○小林委員：

同じページに自己評価があっては、子どもが意見を表明しにくいと思うので、市の取組とは別のページに記載するのはどうか。

○辻委員：

市ができていると自己評価していても「それほどでもない」と考える子どももいると思う。

市の取組が記載されているページとは別のページに評価を記載するという方法もあると思う。

○小林委員：

自己評価があった方が意見は出やすいと思う。

○林委員：

市の自己評価は、すべて「できている」となっているが、課題に思っていることはないのか。市が子どもの意見を取り入れて改善したいと思っている内容を問いかけることで、子どもも意見を出しやすいと思う。

地域で身近に観察されていて、市の取組をどのように感じているか、他の委員の方の意見を伺いたい。

○島崎委員：

夜間開館している児童センターを見学したが、たくさんの中学生在が遊びに来ていて、バスケットボールをしたり、食事をしたりしていた。職員に話を伺うと、子どもたちの居場所になっているとのことであった。

以前から行われていたものなのか、それとも昨年度の子ども会議での意見を受けてこのような状況になったのか気になった。昨年度の子ども会議で出された意見が反映された例を挙げて、ワイワイトークに参加する子どもにも意見を出すことの重要性を伝えら

れると、希望ややりがいを感じてくれると思う。昨年度の子ども会議で出された意見を市政にすぐに反映させることは難しいと思うので、実現までには至っていない事例に関しても進捗状況を伝えるなど積極的に周知したほうがよいと思う。

○小野部会長：

昨年度の子ども会議では、子どもたちからボール遊びができる場所を増やしてほしいという意見があったが、今年状況はどうか。昨年度の子どもの意見を踏まえて、今年度新たに市として変更した点などはあったか。

○事務局：

ボール遊びができる場所を増やしてほしいという意見については、現在みどり公園課で検討を進めている。

○島崎委員：

検討が進んでいるのであれば、市の自己評価に書くなど伝えた方がよいと思う。

○辻委員：

昨年度の子ども会議で出された意見と、その子どもの意見を反映させた取組が、一目見て分かるように伝えた方がよいと思う。

○小野部会長：

現在のワークブックのレイアウトでは、市の自己評価がページの最後に配置され、自己評価の理由となる市の取組がページの前半に配置されているが、自己評価をページの最初に配置し、その下に市がもう少し改善したいと思っている課題などを記載した方がよいと思う。

また、大学生が市の課題となる論点を挙げて、ワイワイトーク当日にパワーポイントで説明するなどの方法はいかがか。例えば、中学生が多くいる児童館は、現状ひばりが丘児童センターと下保谷児童センターの2館であることや、ボール遊びができる場所が少ないなどが挙げられると思う。

○島崎委員：

ワイワイトーク当日に大学生に発表していただくだけでも、よいと思う。

○林委員：

プリントは、感想欄のみなので、市の取組に対して、評価できることと、改善してほしいことを分けて記入する欄を設けたほうが、子どもが意見を表明しやすいと思う。

また、当日は、市の地図を用意すると児童館などの施設の位置が分かるため、ワイワイトーク参加者の理解が深まると思う。

○小野部会長：

昨年度に、市内の児童館・児童センターの位置などが記載された地図を事務局から用意していただいたが、ワイワイトークでも同様の地図を参加者や大学生に配布したほうがよいと思う。また、大学生には子育てハンドブックも配布した方がよいと思う。

ワークブックの別紙プリントについて、市の取組に対して、評価できることと、改善してほしいことを分けて記入する欄を設けた方がよいと思う。

その他に意見等があれば、大学生と調整する時間を考慮し、7月8日までに事務局へ連絡いただきたい。

最終的には、ワイワイトーク当日の進行や市の自己評価の取扱いに関しては、中西委員と事務局の方で調整していただく。ただ、専門部会長として、各委員からいただいた意見についてしっかり反映されているかは確認する。

また、ワイワイトーク参加者の募集はまだ行っているため、協力していただきたい。

○島崎委員：

本日、柳中放課後カフェを開催する予定があるので声をかけたい。

○辻委員：

学校でポスター掲示している。微力ながら、協力したい。

2 その他

○事務局：

ワイワイトークについて、ワイワイプランの評価・検証が試行という段階でもあるため、ワイワイトークの見学を希望される委員の方はご連絡いただきたい。

○小野部会長：

令和7年度第1回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会を閉会する。

以上